

編集後記

いよいよ来年4月から新専門医制度がスタートすることになりました。この10月からは専攻医の募集も始まります。難しい状況のなか、新しい制度を作り上げて来られた専門医機構および日整会の関係各位の努力に心より敬意を表します。紆余曲折を経ましたので、新専門医制度に対しては様々な意見があることでしょう。しかし、立派な整形外科専門医を育成することが基本理念であることは間違いありません。私は教育現場に立つ者の1人として、さらに襟を正して若い医師たちを迎えたいと思っています。

今回の特集は福岡大学の山本卓明先生が企画された「ステロイド関連大腿骨頭壊死症の予防と新しい治療」です。まず目を引くのは「ステロイド性」ではなく、「ステロイド関連」と書かれていることです。これは、多くの疫学研究でステロイド投与量と骨頭壊死発生に有意な関連があることは明らかになっていますが、その詳細な発生機序は今なお不明な点が多いからです。関連因子ではあっても、厳密には原因とは言えないことが反映されています。だからこそ、現在も特発性の名称が使用されている訳です。

さて、特発性大腿骨頭壊死症に関する調査研究班は1975年（昭和50年）に始まり、現在まで40年以上続いている、もっとも長い歴史を持つ研究班の1つです。その間、多くの基礎的・臨床的研究が班を中心に行われ、世界に向けて発信されてきました。本号の特集である「予防と新しい治療」はその班研究の粋を集めた

ものと言えます。予防に目を向けますと、多田氏はスタチンとワルファリン、本村氏はスタチン、抗血小板剤（クロビドゲレル硫酸塩）および抗酸化剤（トコフェロール酢酸エステル）の三剤、岡崎氏はプロトンポンプ阻害剤であるランソプラゾールの臨床的有用性について記載いただきました。市堰氏らは動物実験において necroptosis の側面からその阻害剤の予防効果および間葉系幹細胞の全身投与の可能性について紹介いただきました。また、骨頭壊死発生後の治療には3つの関節温存術の新しい試みが紹介されています。いずれもすでに臨床応用されており、山崎氏は骨髄単核球移植、黒田氏は成長因子（bFGF）を用いた骨壊死修復の促進効果について、そして久保氏は人工骨移植により圧潰部を持ち上げ、適合性を改善する方法を示していただきました。

ステロイド関連大腿骨頭壊死症の多くは膠原病などの基礎疾患を有しています。患者さんはその原疾患の治療だけでも大変な状況に、さらに骨頭壊死という歩行を脅かす事態を迎えます。何とか負担を軽減してやりたいものです。本特集に寄稿いただきました論文の内容はいずれも骨頭壊死の予防と関節症進行に有望なものと確信しました。今後、エビデンスが蓄積され、ステロイド関連大腿骨頭壊死症の患者さんの福音につながっていくことを期待します。

（中島康晴）

「整形・災害外科」第60巻 第11号（10月号） 2017年10月1日発行（毎月1回1日発行） 定価（本体2,500円＋税） 年間購読料金 定価（本体39,400円＋税） 〔年間13冊（臨時増刊号、増大号を含む）の誌代〕 〔年間予約購読者に限り送料無料〕	発行所 金原出版株式会社 発行者 福村直樹 〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-14 TEL 03 (3811) 7165〔編集室直通〕 TEL 03 (3811) 7184〔営業部直通〕 FAX 03 (3813) 0288 http://www.kanehara-shuppan.co.jp 振替口座 00130-1-191269 印刷所 三報社印刷株式会社 広告申込先 福田商店 TEL 06 (6941) 5600
---	---

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、二次的著作物の利用に関する原著作者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY** <（社）出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、（社）出版者著作権管理機構（電話 03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, e-mail:info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。